

議 事 録

会議名称	第1回小松市未来型図書館基本構想策定委員会
日 時	令和4年6月28日(火) 10時～12時
場 所	小松市役所7階会議室
出席者	<p style="text-align: right;">(敬称略・順不同)</p> <p>小松市長 宮橋 勝栄 小松市教育委員会教育長 石黒 和彦</p> <p>小松市未来型図書館基本構想策定委員会委員8名 座 長 平賀 研也 副座長 西村 聡 委 員 金子 哲也 委 員 久保 由味子 委 員 道券 悠一 委 員 中村 知恵 委 員 山元 加津子 委 員 尾木沢 響子</p> <p>事務局（生涯学習課未来型図書館づくり推進チーム、小松市立図書館） 横山、坂下、千葉、吉田、界、中山、梶谷、加藤</p> <p>支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社（以下「a r g」）） 李、有尾、西谷</p>
欠席者	なし
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員委嘱 2. 挨拶 3. 委員会の設置目的及び委員の紹介 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小松市未来型図書館基本構想策定委員会の運営等について (2) 基本構想策定の概要及び今後のスケジュールについて (3) その他
配布資料	<p>【資料1】小松市未来型図書館基本構想策定委員会設置要綱及び名簿</p> <p>【資料2】小松市未来型図書館基本構想策定委員会の運営等について</p> <p>【資料3】基本構想策定の概要及び今後のスケジュールについて</p> <p>【資料4】人材育成講座（図書館エディター養成講座・子ども司書養成講座）について 現図書館の魅力アップに向けた取組みについて</p>
傍聴者	なし（第2回より傍聴可能とする）

<会議内容は下記のとおり>

1. 委員委嘱

2. 挨拶（宮橋市長）

昨年、令和3年度は、「市民とともに創る未来型図書館」をめざし、講演会や市民ワークショップ、意見交換会、子どもたちからの絵画募集などを通じて、これからの図書館のあり方について、一緒に考え、関心を高めていただく機会を設けてきた。

今年度は、いよいよ、未来型図書館のビジョンや基本方針を作成していく「基本構想」づくりに取り組んでいく。基本構想では、どんなことが未来型なのか、「未来型」の本質に迫り、「未来型図書館」の新しい概念として、図書館だけではなく、様々な公共施設のあり方や地方自治のあり方の一助となる概念をみなさんと考えていきたい。

さらには、本との出会いの場、人やモノ・コトがつながる場、新たな活気とにぎわいも創っていきたいと考えており、市民生活が便利になり、幸福度が高まるといった「図書館」が持つ大きな可能性をみなさんと共に創っていききたい。そして、対話を通じて、みなさんが思っていること、心の中から出て来た言葉を大切に進めていきたい。

また、同時に市民のみなさんとのワークショップの機会を通じて、対話を重ねながら、市民と共に創るということを改めて大切にして、未来型図書館づくりに取り組んでいきたい。

3. 委員会の設置目的及び委員の紹介

各委員自己紹介。続いて、事務局及び支援業務受託者紹介。

4. 議事

（1）小松市未来型図書館基本構想策定委員会の運営等について

資料2に基づき、事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

久保委員	傍聴者に人数等の縛りがあるが、応募者多数だった場合、1回目に参加できなかった人は次回以降優先的に参加できるようにする等、参加できなかったことを考慮した対応はあるか。
平賀座長	どう対応するかも皆さんとアイデアを出し合い議論していきたい。Web上で録画等の記録を部分的に公開したり、オンラインで参加していただいたり、開かれた開催を検討していきたい。 市のホームページ上でだけではなく、各種SNSで公開するなど、審議会の内容を市民へ届ける工夫を検討していけるとよいと考えているがいかがか。
事務局 坂下課長	お伺いした意見を参考にしながら検討していきたい。
山元委員	これまでに大人向けの勉強会などを実施しているが、まだまだ周知が行き届いていない。少しでも様々な機会を通じて多様な人に届けられるとよいと願っている。

a r g 李	地域のケーブルテレビを通じて動画を公開し、インターネット公開と合わせて多くの層へ届ける方法もある。
平賀座長	この場で決定できる事項ではないが、本日の内容も挨拶も含めて公開していくとよいと考えている。検討し、個別にご相談の上、決定、実施していけたらと思う。

(2) 基本構想策定の概要及び今後のスケジュールについて

資料3に基づき、a r gより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

基本構想について	
平賀座長	<p>一番大切なことは、「未来型図書館」が何なのか、どのような機能で、どのように人々の暮らしを支えていくものなのか。できるだけ従来の図書館の枠を外して膨らませていくことが重要である。</p> <p>小松市ならではの人々の暮らしに根ざした「知る」「想像する」「育む」などの生活実感から、未来型図書館の立地、既存施設の機能との関係性、それをどのような事業手法で進めるのか等の方向性を議論していきたい。a r gからの説明はそうした未来型図書館をつくっていくプロセスの提案であると理解している。このようなステップで問題ないか。</p>
委員一同	意義なし。

策定に向けたワークショップについて	
山元委員	<p>まち歩き「地域を発見する」とあるが、現状は立地場所が確定される前のタイミングでの実施を予定していると思う。もし場所を決めるための位置づけなのであればまち全体を歩く必要があるのではないか。</p> <p>ワークショップの回数は限られるため、各回重要になってくる。場所が確定してから歩くからこそ、どんなまちを目指すのかということにつながるのではないか。どのあたりにできるか立地についておおよそ決まってきた時点で、まち歩きを実施した方が、有意義であるのではないかと疑問が残る。</p>
a r g 有尾	<p>まち歩きは立地場所の選定の素材としても扱いたいが、同時に機能・サービス内容の検討の素材になっていくという位置づけで考えている。</p> <p>実際に参加者とともに歩くことを考えると、まち全体を歩くことは現実的には難しく、テーマをもって優先順位をつけ、小松市を知る上で見るべきポイントやテーマが多いであろう芦城公園周辺や小松駅周辺を、まち歩きをするエリアとして検討している。</p>
a r g 李	<p>本来であれば、まち全体を歩けることが望ましいが、幅広い年代の参加者を想定すると、安全性などを考慮し範囲を限定せざるを得ない。</p> <p>候補地がいくつかある中で、まち歩きのエリアを2カ所に決めての実施が、問題点等を確実に反映していけるかという点では課題は残るのは事実。まとめ</p>

	<p>の段階で、実際にまち歩きをしたエリアと、市域全体の地図を重ね合わせ、つなげて検討していくという方法は可能であると考えている。</p>
平賀座長	<p>まず大事なのは、未来型図書館の機能であり、ここではどのような過ごし方ができ、何ができる場所なのかということではないか。それを拾っていくことで、どのくらいの規模でどのような立地が良いか見えてくるのではないか。そうした対話のきっかけを生むための手法としてのまち歩きであると認識している。</p>
尾木沢委員	<p>小松市を一つの家と考えると図書館は書斎だったのだと思う。これからは、書斎もあるといいが、庭や子どもたちのあそび場につながるリビングもあって欲しい、という家づくりを行っていくことになるのだなと感じた。</p> <p>現時点では、「未来型」が何かということも分かっておらず、絵本館の来館者からはどのようなリビングを欲しいのかについても伺えていない。次回までに、ワークショップとは別にリビングに必要な要素について時間をかけてリサーチをしたい。</p>
平賀座長	<p>委員の皆様にもワークショップに参加いただけるとよいと思っている。おそらく「未来型図書館」についてすべて語れる方はいない。それぞれが思っていることをテーブルに出すことがまず必要で、それを第1回の作戦会議で行うことになるのだと思う。一度、図書館という既存のイメージを外し、どんな時間を過ごしたいのかというところへ立ち戻らないと、本当の意味での未来型図書館という議論ができないと思う。</p>
a r g 有尾	<p>ワークショップにおける対話では、他者の視点での話も聞くことで、自身では気づいていなかった根本的な課題に気づいたり、視点が変わることで新しい発見を生んだりすると考えている。こうした対話は初回だけでは完結せず、まちを一緒に見て話すことで、どんな機能があるとよいのか、考えを膨らませていきたい。</p> <p>ぜひ委員の皆様にもワークショップに参加いただき、市民の皆さんと考えるプロセスを共有しながら検討を進めていけたらと思っている。</p>

共創のプラットフォーム「こまつリビングラボ（仮称）」の考え方について	
平賀座長	<p>市民や事業者、行政など多様な皆さんが参画する方法は様々あるが、このような対話と活動の場について、市長はどのように考えていらっしゃるか。</p>
宮橋市長	<p>多くの場合は、会話と議論のみで対話が抜けているものだと感じる。市民の皆さんには図書館づくりを通して対話を経験していただきたいと思っている。施設ができた後も図書館のなかで継続的に対話を行うかたちを形成していけるとよく、また、そうしたあり方を小松市でも大事にしていきたい。</p> <p>このような場を市民とともに作り、それが続いていく仕組みができると、小松市の未来を創るということの体現にもなるのではないかと考えている。</p>

平賀座長	集まった人たちが議論されたことを、誰かにやってもらうのではなく、自分たちでみんなのためにやろうという行動が生まれる場所にもなり得るかと思う。そうした方向性もイメージしつつ、対話の場をご提案いただきながら、さらに詰めていけるとよいと思っている。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考事例について	
平賀座長	<p>今後も議論のテーマに応じた事例など、適宜情報提供いただきながら進めていけるとよいと思っている。</p> <p>図書館との融合施設としてのトレンドとしては、図書館を核としつつ、どのような機能を合わせるパターンが多いか。</p>
arg 李	<p>子育ては、図書館とセットとなって計画されることが多い。理由としては、図書館が安心した居場所となれる可能性がある場所として見られていることが大きい。</p> <p>また、「コワーキング (co-working)」「コラーニング (co-learning)」という言葉を使わなくてもよいくらい、図書館は学び知る場所として、人々がともに何かをできる場所であるということが前提として浸透しつつある。</p>
平賀座長	<p>市民協働センターのような「何かをしたい」という思いに応える窓口としての役割も図書館機能と非常に親和性が高く、一つのトレンドといえるだろう。</p> <p>「情報」といってもデジタルな情報、館内にとどまらない世界の情報等、多様である。そうした情報と、利用者の体験を知ることがどうつなげるかも含めて、これから皆さんとともに考えていけたらと思っている。</p>

(3) その他

【資料4】に基づき、人材育成講座及び現図書館の魅力アップに向けた取組み内容について、事務局より説明。

次回、第2回策定委員会は8月下旬から9月上旬に開催予定。

以上